

平成28年度 新・北海道病院事業改革プラン点検・評価書（案）

目 次

第1章 全体評価	1
第2章 経営改善に係る評価	3
第3章 収支計画及び数値目標の達成状況に係る評価	12

第1章 全体評価

1 自己点検・評価

平成28年度については、医師事務作業補助者を3名増員し、医師の勤務環境の改善に努めたほか、新たな取組として、江差、北見、羽幌、緑ヶ丘、子ども総合医療・療育センターの5病院に病棟支援専門員を配置し、看護職員の業務負担の軽減を図ることや、医師・看護師・薬剤師等の医療従事者確保対策として、試験回数の拡大などを行った。

医業収益は、北見・向陽ヶ丘病院の移転新築に伴う影響があったことなどから、目標比83.4%であり、その内訳では、入院収益が目標比78.6%、外来収益が92.5%となっている。一方、費用については、北見・向陽ヶ丘病院の移転新築に伴う減価償却費等の増があったものの、給与費の減少などもあり、総費用は前年度を下回り、目標比91.9%、その内訳は医業費用で目標比92.1%、医業外費用は目標比90.3%であった。

病院別の医業収益の状況については、

- ① 精神科2病院のうち、緑ヶ丘病院においては、退院後通院患者及び訪問看護の増加による外来収益の増や、精神科救急入院（スーパー救急）病棟が高い稼働率を維持できたことと、入院・外来診療単価が増加したことなどにより、概ね年間目標どおりの収益額を確保した。
また、向陽ヶ丘病院においては、注射など処置料の増により、外来診療単価は増加したものの、移転新築による影響などから、年間目標を下回った。
- ② 循環器・呼吸器疾患の高度・専門病院である北見病院については、外来は前年度を上回る患者数を確保し収益も増加したが、入院は移転新築による影響により、年間目標を下回った。
- ③ 地域センター2病院のうち、江差病院においては、入院・外来ともに患者数が前年度より大きく減少したことにより、年間目標、前年度実績ともに下回った。
また、羽幌病院においては、地域包括ケア病床の稼働やレスパイト入院日数の増などにより入院診療単価は増加したが、年間目標、前年度実績を下回った。
- ④ 小児の高度・専門医療機関である子ども総合医療・療育センターについては、産科の診療再開等により、収益は前年度を上回ったが、年間目標には至らなかった。

また、収支差については、緑ヶ丘、向陽ヶ丘、北見の3病院が年間目標以下に縮小した。子ども総合医療・療育センターにおいては、前年度より収支差を縮小させることができたものの、年間目標には至らず、江差、羽幌の2病院も年間目標には至らず、前年度実績よりも拡大した。

平成29年度における経営改善に向けては、人材確保を担当する部門を新たに設け、医師等の人材確保に取り組むとともに、全ての病院で地域連携部門や医事部門の機能を強化し、収益の確保を図っていく。

2 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院事業全体として、向陽ヶ丘病院及び北見病院は移転に向けた患者調整等の特殊事情があったものの、入院患者数及び入院収益の減少に歯止めがかかっていない。 ○ 羽幌病院における地域包括ケア病床の運用開始、子ども総合医療・療育センターの産科再開など、収益確保に向けた新たな環境も整ってきたことから、患者数の確保に努めること。 ○ 慢性的な欠員を生じている医師確保対策については、義務年限を終了した自治医科大学卒業医師や地域枠医師の積極的な活用策について検討するとともに、看護師・薬剤師確保対策とあわせて、独自手当の創設など地方公営企業法の全部適用移行のメリットを活かした人材確保策を検討すること。 ○ 新たな道立病院改革プランの策定にあたって、近年の患者数の減少傾向や道立病院の所在する地域の人口推計なども考慮し、病床数のあり方についても十分な検討を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入院患者数及び入院収益の減少を抑えるために、関係機関や住民へのPRなど様々な取り組みを行っているところであるが、北見・コドモックル以外の病院は減少に歯止めがかかっていない。 ○ 羽幌病院においては、平成28年6月より地域包括ケア病床の運用による患者数の確保に努めたが、全体としては患者数の増にはつながらなかった。 ○ 自治医大OB会への働きかけや義務年限中医師との面談場面における道立病院室職員の同席など、自治医大卒業医師に対する招聘活動を実施した。 (H29.4月現在、羽幌病院に4名配置) また、医療従事者の採用試験について、年齢要件を58歳まで引き上げ、試験の実施回数を増やすなど採用機会の拡大を図るとともに、平成29年4月より「指導医手当」を創設した。 なお、江差・北見・羽幌・緑ヶ丘・向陽ヶ丘の5病院が地域枠制度に係る指定公的医療機関に位置づけられている。 ○ 平成28年12月に策定された地域医療構想を踏まえ、道立病院の所在する地域の人口推計や将来の病床必要量を考慮しながら、平成29年3月に病院事業改革推進プランを策定したところ。

3 委員会点検・評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ 道立病院においては、特に入院患者数の減少が続いている中、平成28年度は北見病院及び向陽ヶ丘病院の移転新築による特殊事情の影響もあり、前年度より患者数の増加した北見病院、入院診療単価が増加し前年度を上回る医業収益を確保した子ども総合医療・療育センターが健闘したものの、目標を達成できていない状況にある。 このため、経営改善を進めていくためには、病院事業管理者をトップとした新たな経営体制のもと、医師等医療従事者の確保など経営基盤の強化を図り、本年3月に策定した改革推進プランの着実な推進と進捗管理が必要である。 ○ 各病院の診療体制については、収益確保の根幹となる医師、看護師など、必要な医療従事者が十分に確保できていない。 特に、各病院の基幹診療科の医師確保に重点的に取り組むとともに、病棟での記録作成や入退院の事務手続きなどを行う病棟支援専門員の配置等による看護職員の負担軽減策や、診療報酬の算定に必要な医療従事者の確保について検討すること。 ○ 地域の医療需要が変化していく中、経営を維持していくためには、道立病院が有する機能を十分に発揮し、地域の住民に利用される病院となることが必要であり、北見病院については指定管理による運営等を検討することや、周辺自治体や医療機関等と連携を図るためにも、情報交換や協議の機会を継続して設けるなど、新規患者確保等による利用拡大に努めること。
--

第2章 経営改善に係る評価

1 収益の確保

(1) 診療体制の整備

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、必要な診療科に必要な医師数を確保するため、時期を逸することなく、各医育大学に医師派遣要請を行うこと。 ○ 医師の負担軽減策として配置している医師事務作業補助者については、その効果を検証すること。 ○ 医師・看護師・薬剤師の不足は、医業収益にも影響することから、欠員の解消に向けて、地方公営企業法の全部適用への移行を機に、業務内容に応じた諸手当の設定や勤務条件の改善等、確保対策の強化を検討すること。 ○ 高額医療機器の整備にあたっては、引き続き、全国的な価格情報を収集し、契約価格、保守料のあり方等を検証しながら費用の縮減に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各医育大学の関係医局（20講座）に対し、適時、医師派遣を要請した。 ○ 医師事務作業補助者の配置により、診断書や診療情報提供書、DPCデータの作成、診療計画書、退院サマリー等の作成に係る医師の業務負担が軽減された。 ○ 医療従事者の採用試験について、年齢要件を58歳まで引き上げ、試験の実施回数を増やすなど採用機会の拡大を図るとともに、平成29年4月より「指導医手当」を創設した。 ○ 高額医療機器等の購入やシステム整備については、他の医療機関の導入事例における割引率などについて、全国自治体病院協議会等を通じて情報収集し、予定価格の算定に活用した。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																																
ア 医師・看護師・薬剤師等医療従事者等の確保 イ 幅広い診療を行うことができる総合内科医の確保 ウ 研修医の採用拡大	<p><人材確保の取組（医師・看護師・薬剤師等医療従事者確保の共通の取組）></p> <ul style="list-style-type: none"> * インターネット（HP, Facebook, Twitter, X等）による医師・看護師・薬剤師等募集活動 * 民間企業主催の説明会、道内外での医師・看護師・薬剤師募集活動（医師：東京1回、大阪1回、看護師：東京1回、札幌6回、薬剤師：道内2大学、道外1大学） * 民間人材紹介事業者を活用した募集、契約～医師6社、看護師6社、薬剤師4社 * 医師会・看護協会・薬剤師会等関係団体との連携や新聞（2紙）・情報誌等（5誌）での募集 <p><医師確保対策></p> <ul style="list-style-type: none"> * 道内3医育大学への医師派遣要請 * 自治医科大学卒業医師の確保（羽幌4名） * 医師本人の道立病院現地見学（3名応募） <p><医師配置状況> （平成29年3月末現在）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>江差</th> <th>北見</th> <th>羽幌</th> <th>緑ヶ丘</th> <th>向陽ヶ丘</th> <th>コトモツル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定数</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>43</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>現員数</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>40</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>▲6</td> <td></td> <td>▲6</td> <td>1</td> <td>▲1</td> <td>▲3</td> <td>▲15</td> </tr> </tbody> </table>	区分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモツル	計	定数	18	6	13	8	6	43	94	現員数	12	6	7	9	5	40	79	差引	▲6		▲6	1	▲1	▲3	▲15
区分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモツル	計																										
定数	18	6	13	8	6	43	94																										
現員数	12	6	7	9	5	40	79																										
差引	▲6		▲6	1	▲1	▲3	▲15																										

[その他：処遇改善、勤務環境改善など]

* 医学研究調査手当の継続 [H26～H28]

⑩ 医師事務作業補助者の拡充 [H27:9名→H28:12名]

区 分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモツル	計
配置数	2名	1→2名	1名	1名	1名	3→5名	9→12名

<看護師確保対策>

* 看護師確保 (42名)

- ・ 合同就職説明会での職員募集活動
- ・ 民間人材紹介事業者を介した看護師確保
- ・ 民間の看護師就職情報サイトを活用した看護師募集
- ・ 道立病院の視察・勤務体験実施

* 看護師養成校訪問 (43校)

- ・ 道外看護師養成校へのダイレクトメール発送

⑩ 江差高等看護学院で説明会実施 (4月)

⑩ 看護師養成校に対し、卒業生からのメッセージを配布

⑩ 年齢要件の緩和 (50歳→58歳)

⑩ 採用試験実施回数拡大 (10→13回)

[その他処遇改善、勤務環境改善など]

* 新人看護職員のキャリアサポート (19名)

⑩ 病棟支援専門員の配置 (7名)

区 分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモツル	計
配置数	2	1	1	1	0	2	7

⑩ 夜勤専従の実施 (実人数9名、延べ19名)

<看護師配置状況>

(平成29年3月末現在)

区 分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモツル	計
定 数	113	67	46	79	65	202	572
現員数	83	63	40	76	56	194	512
差 引	▲ 30	▲ 4	▲ 6	▲ 3	▲ 9	▲ 8	▲ 60

＜薬剤師・その他の医療技術者確保対策＞

* 薬剤師確保（1名）

- ・道内薬科大学や養成校、職能団体への働きかけ
- ・薬剤師の採用試験の弾力的な実施
- ・薬剤師の道立病院視察・勤務体験の実施

⑧年齢要件の緩和（50歳→58歳）

⑨採用試験実施回数の拡大（9回→11回）

＜薬剤師配置状況＞

（平成29年3月末現在）

区分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモツル	計
定数	3	3	2	3	2	4	17
現員数	2	2	1	1	2	4	12
差引	▲1	▲1	▲1	▲2	0	0	▲5

＜その他の職種（現員数のみ）＞

（平成29年3月末現在）

区分	江差	北見	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コトモツル	計
放射線技師	5	3	3	2	2	7.5	22.5
検査技師	5	4	3	3	2	12	29
臨床工学技士	2	3	1	-	-	3	9
理学療法士	2	-	2	-	-	14	18
作業療法士	1	-	-	6	2	7	16

■委員会点検・評価

- 各病院に必要な診療機能の確保に向け、時期を逸することなく、各医育大学に医師の派遣要請を行うこと。
- 看護師の負担軽減策として配置している病棟支援専門員について、その効果を検証すること。
- 医師・看護師・薬剤師の不足は、診療体制の維持と収益の確保に影響することから、採用試験の柔軟な実施など、地方公営企業法の全部適用による効果を十分に発揮して、経営基盤の強化に努めること。
また、収益の確保に必要なその他の職種についても、柔軟に採用することが可能となるよう検討すること。

プラン	自己点検・評価																																																
エ 高度な医療機器等の整備 オ 病床の効率的な運用 カ 医療安全対策の徹底 キ クリニカルパスの導入の検討	<p>○高度な医療機器の整備 平成28年度に整備した主な医療機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江差：CT（更新）、MRI（磁気コイル・周辺部品の取替え） ・羽幌：血液浄化システム（更新） <p>○許可・稼働病床の変更 *向陽ヶ丘（H28.6.20～）：【許可・稼働】精神 146床→105床 *北見（H28.8.1～）：【許可】一般 130床→70床、【稼働】一般 38床→70床</p> <p>○インシデント・アクシデントの集計と要因分析 医療事故等報告システム（CLIP）による報告を基に、医療事故等を集計し要因を分析。毎月開催する医療安全委員会において対応策を検討し各職員へ周知。</p> <p>○医療安全管理に関する職員教育 各道立病院において全職員を対象とする医療安全研修会を年2回開催するほか、必要に応じて部門毎に研修会を開催するとともに、医療安全管理者養成研修など外部の研修会に関係職員を派遣した。</p> <p>○医療安全情報の提供 本庁から各道立病院へ、毎月、医療安全情報を提供し情報を共有。</p> <p>○クリニカルパスの導入</p> <table border="1" data-bbox="685 871 1816 1153"> <thead> <tr> <th colspan="3">【バスの数】</th> <th colspan="3">【バスの適用件数・割合】</th> </tr> <tr> <th>病院名</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>病院名</th> <th>H28 適用件数（件）</th> <th>H28 適用割合（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>34</td> <td>34</td> <td>江差</td> <td>108</td> <td>11.1</td> </tr> <tr> <td>北見</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>北見</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>羽幌</td> <td>26</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>緑ヶ丘</td> <td>124</td> <td>7.9</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>向陽ヶ丘</td> <td>1,323</td> <td>78.0</td> </tr> <tr> <td>コドモ</td> <td>33</td> <td>43</td> <td>コドモ</td> <td>1,188</td> <td>22.4</td> </tr> </tbody> </table>	【バスの数】			【バスの適用件数・割合】			病院名	H27	H28	病院名	H28 適用件数（件）	H28 適用割合（%）	江差	34	34	江差	108	11.1	北見	1	2	北見	0	0.0	羽幌	4	18	羽幌	26	3.7	緑ヶ丘	3	3	緑ヶ丘	124	7.9	向陽ヶ丘	2	2	向陽ヶ丘	1,323	78.0	コドモ	33	43	コドモ	1,188	22.4
【バスの数】			【バスの適用件数・割合】																																														
病院名	H27	H28	病院名	H28 適用件数（件）	H28 適用割合（%）																																												
江差	34	34	江差	108	11.1																																												
北見	1	2	北見	0	0.0																																												
羽幌	4	18	羽幌	26	3.7																																												
緑ヶ丘	3	3	緑ヶ丘	124	7.9																																												
向陽ヶ丘	2	2	向陽ヶ丘	1,323	78.0																																												
コドモ	33	43	コドモ	1,188	22.4																																												

■委員会点検・評価

- 高額医療機器の整備にあたっては、引き続き全国的な価格情報を収集し、契約価格、保守料のあり方等を検証しながら費用の縮減に努めること。
- 医療安全対策については、引き続き医療事故の発生防止に向け、事故防止を専門的に扱う講師等を内部の研修会に招くなど、取組内容の充実を検討すること。

(2) 患者サービス・療養環境の向上等

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
○ 療養環境の更なる向上に向けて、患者満足度調査の結果に基づく改善状況の点検・検証を行うこと。	○ 各病院において患者満足度調査を実施し、院内で結果を共有するとともに、改善状況の点検・検証を行うことにより、更なる療養環境の向上に努めた。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価
<p>ア 患者満足度調査の実施</p> <p>イ 患者のニーズに応じた満足されるサービスの提供</p> <p>ウ 必要な施設・設備整備の検討</p> <p>エ 安全かつ快適で利便性の高い療養環境づくり</p>	<p>○ 各病院において、外来や病棟ごとに「患者満足度調査」を実施し、その結果を前年度の結果と比較検証するとともに院内で共有し、満足度が低いと判断される項目について、改善可能なものから見直すなど、さらなる患者サービスの向上に努めた。</p> <p>〔主な改善取組項目：診療待ち時間短縮、退院支援充実、医師・看護師の接遇対応向上、病棟設備の改修〕</p> <p>○施設整備 移転新築工事を終了し、向陽ヶ丘病院は平成28年6月20日、北見病院は平成28年8月1日に新病院を開院した。</p>

(3) 広報の充実

① 個別事項概要

プラン	自己点検・評価
<p>ホームページや広報紙等による積極的な広報活動</p>	<p>○ H P、Facebook、Twitter、メルマガ等を活用し道立病院のP Rを実施</p> <p>○ 各病院の季刊誌等の発行</p> <p>○ 人材確保の道外イベント（移住促進フェアや北海道物産展）を利用した道立病院のP R活動の実施</p> <p>○ 看護師募集用パンフ作成・配付〔養成校、振興局への設置など〕</p> <p>㊦ 全国誌への募集広告の掲載</p>

(4) 一般検診、人間ドック等の拡大

① 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																					
<p>ア 検診や人間ドックの拡大</p> <p>イ 地域における保健、予防活動への支援</p>	<p>○検診・人間ドックの拡大</p> <p>【検診実績】 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="714 403 1256 557"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>H 2 7</th> <th>H 2 8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江 差</td> <td>1,089</td> <td>1,127</td> </tr> <tr> <td>北 見</td> <td>182</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>羽 幌</td> <td>243</td> <td>219</td> </tr> </tbody> </table> <p>【人間ドック実績】 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="1341 403 1883 518"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>H 2 7</th> <th>H 2 8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江 差</td> <td>37</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>羽 幌</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>○地域活動の実施 羽幌：へき地への巡回診療を実施（羽幌町2地区、苫前町2地区） 向陽ヶ丘：出前講座や地域住民向け講演会などにより認知症疾患医療センターのPRを実施</p> <p>○公開講座等の実施 北見：糖尿病に関する講演（看護の日）、羽幌：出前講座3回、緑ヶ丘：地域公開講座6回 コドモックル：地域連携セミナー7回</p>	病院名	H 2 7	H 2 8	江 差	1,089	1,127	北 見	182	93	羽 幌	243	219	病院名	H 2 7	H 2 8	江 差	37	22	羽 幌	1	4
病院名	H 2 7	H 2 8																				
江 差	1,089	1,127																				
北 見	182	93																				
羽 幌	243	219																				
病院名	H 2 7	H 2 8																				
江 差	37	22																				
羽 幌	1	4																				

(5) 未収金の発生防止等

① 個別事項概要

プラン	自己点検・評価												
<p>未収金の発生防止や早期回収</p>	<p>○ 未収金担当者研修会を開催し、未収金対策の取組について情報交換を行い、特に入院患者における未収金発生を防止するためのスキルアップを図った。</p> <p>○ 個人医業等未収金の事務処理方針を新たに策定し、未収金の発生防止及び未収金の着実な回収につき取組の方向性を定めた。</p> <p>○過年度分個人医業未収金 年度末残高の推移 (単位：円)</p> <table border="1" data-bbox="714 1230 1458 1339"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H 2 6</th> <th>H 2 7</th> <th>H 2 8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金 額</td> <td>29,048,535</td> <td>27,838,640</td> <td>23,938,310</td> </tr> <tr> <td>対前年度増減</td> <td>▲13.4%</td> <td>▲4.2%</td> <td>▲14.0%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H 2 6	H 2 7	H 2 8	金 額	29,048,535	27,838,640	23,938,310	対前年度増減	▲13.4%	▲4.2%	▲14.0%
区 分	H 2 6	H 2 7	H 2 8										
金 額	29,048,535	27,838,640	23,938,310										
対前年度増減	▲13.4%	▲4.2%	▲14.0%										

(6) 診療報酬請求への的確な対応

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 江差病院の地域包括ケア入院管理料など、取得可能な施設基準について、遅延無く届出を行うとともに、算定した収益が確保できるよう患者確保に努めること。 ○ 診療報酬の請求状況について点検を実施するなど、請求漏れの防止を徹底すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において取得可能な施設基準について随時取得するとともに、患者確保に努めた。 ○ 診療報酬請求については、委託業者以外の二重チェックを実施することにより、医事業務の精度を高めた。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																									
<p>ア 新たな施設基準の積極的な取得</p> <p>イ 診療行為の記録漏れ等の発生防止</p>	<p>○平成28年度において、以下の施設基準等を新たに取得。 【各病院の施設基準（新規分）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>名称</th> <th>金額（千円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江 差</td> <td>データ提出加算1</td> <td>618</td> </tr> <tr> <td>北 見</td> <td>薬剤管理指導料</td> <td>5,582</td> </tr> <tr> <td>羽 幌</td> <td>包括ケア入院医療管理料</td> <td>51,976</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>検体検査管理加算（Ⅰ）→（Ⅱ）</td> <td>339</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">向陽ヶ丘</td> <td>医師事務作業補助体制加算1（100対1）</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>CT撮影（コンピュータ断層判断）</td> <td>3,449</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コドモックル</td> <td>呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）</td> <td>564</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算（加算3）</td> <td>996</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	名称	金額（千円）	江 差	データ提出加算1	618	北 見	薬剤管理指導料	5,582	羽 幌	包括ケア入院医療管理料	51,976	緑ヶ丘	検体検査管理加算（Ⅰ）→（Ⅱ）	339	向陽ヶ丘	医師事務作業補助体制加算1（100対1）	212	CT撮影（コンピュータ断層判断）	3,449	コドモックル	呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）	564	退院支援加算（加算3）	996
病院名	名称	金額（千円）																								
江 差	データ提出加算1	618																								
北 見	薬剤管理指導料	5,582																								
羽 幌	包括ケア入院医療管理料	51,976																								
緑ヶ丘	検体検査管理加算（Ⅰ）→（Ⅱ）	339																								
向陽ヶ丘	医師事務作業補助体制加算1（100対1）	212																								
	CT撮影（コンピュータ断層判断）	3,449																								
コドモックル	呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）	564																								
	退院支援加算（加算3）	996																								

(7) 適正な受益者負担

① 個別事項概要

プラン	自己点検・評価
○使用料、手数料の原価に照らした適正な見直し	○ 現在、無償交付となっている文書作成手数料（特定疾患治療研究事業・小児慢性特定疾患治療研究事業に係るもの）については、研究事業の今後の推移を見ながら、引き続き検討を行うこととした。

■委員会点検・評価

- 療養環境の更なる向上に向けて、患者満足度調査結果により改善した処理状況を含めて点検し、前年度の結果と比較した検証を行うこと。
- 診療報酬の請求漏れの防止を図るため、委託している医事業務の点検を継続的に実施すること。
- 病院の機能や地域の魅力を発信するなど、わかりやすいホームページの作成や定期的な更新を行い、積極的な広報を実施すること。

2 費用の縮減

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 費用については、上半期の収支状況を踏まえ、引き続き、患者の療養環境に配慮しながら、縮減に努めること。 ○ 後発医薬品の利用は、患者負担の軽減にも寄与することから、さらなる利用拡大に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 療養環境に配慮しながら、各病院で光熱水費の節減に努め、費用の縮減を図った。 ○ 後発医薬品採用率は、新指標値で全病院目標平均値は74.5%であるのに対して、全病院年度計実績平均値72.2%(上半期72.4%、下半期72.0%)に止まった。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																																											
(1) 病床規模の適正化 ア 病床利用率等の状況を見極めた病床規模の適正化 イ 適正化後の施設の有効活用の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改革推進プランにおいては、地域における各病院の役割・機能等を踏まえ、地域の関係者と協議しながら、病床規模について検討を進めていくこととしている。 																																											
(2) 職員の適正配置 業務量等を勘案した職員の適正配置	<ul style="list-style-type: none"> ○ ⑧ [江差] 看護師2減→臨床工学技士定数2増 (H28年度～) ○ 医療連携専門員 (MSW) 【特別職非常勤職員】の配置 [江差・北見・羽幌] (H27～H28 継続) 																																											
(3) 医薬材料費の節減 ア 購入の一元化等による廉価購入の実施 イ 後発医薬品の使用拡大 ウ 遊休品や死蔵品の発生の防止等の適正な在庫管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の自治体病院の医薬品の購入単価等の情報を活用することにより、廉価購入に努めた。 ○ 後発医薬品採用率は、新指標値で全病院目標平均値は74.5%であるのに対して、全病院年度計実績平均値72.2%(上半期72.4%、下半期72.0%)に止まった。 <p>■ H28年度 後発医薬品採用率(規格単位数量ベース)(新基準)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th rowspan="2">目標値</th> <th colspan="3">実績</th> </tr> <tr> <th>上半期</th> <th>下半期</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>江差</td> <td>73.0%</td> <td>76.1%</td> <td>77.6%</td> <td>76.9%</td> </tr> <tr> <td>北見</td> <td>80.0%</td> <td>76.4%</td> <td>58.3%</td> <td>67.4%</td> </tr> <tr> <td>羽幌</td> <td>85.0%</td> <td>76.9%</td> <td>76.1%</td> <td>76.5%</td> </tr> <tr> <td>緑ヶ丘</td> <td>71.0%</td> <td>68.2%</td> <td>68.2%</td> <td>68.2%</td> </tr> <tr> <td>向陽ヶ丘</td> <td>67.0%</td> <td>64.9%</td> <td>75.9%</td> <td>70.4%</td> </tr> <tr> <td>コドモックル</td> <td>71.0%</td> <td>71.8%</td> <td>75.9%</td> <td>73.9%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>74.5%</td> <td>72.4%</td> <td>72.0%</td> <td>72.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※北見病院は、システム更新のため見込値</p>	病院名	目標値	実績			上半期	下半期	計	江差	73.0%	76.1%	77.6%	76.9%	北見	80.0%	76.4%	58.3%	67.4%	羽幌	85.0%	76.9%	76.1%	76.5%	緑ヶ丘	71.0%	68.2%	68.2%	68.2%	向陽ヶ丘	67.0%	64.9%	75.9%	70.4%	コドモックル	71.0%	71.8%	75.9%	73.9%	計	74.5%	72.4%	72.0%	72.2%
病院名	目標値			実績																																								
		上半期	下半期	計																																								
江差	73.0%	76.1%	77.6%	76.9%																																								
北見	80.0%	76.4%	58.3%	67.4%																																								
羽幌	85.0%	76.9%	76.1%	76.5%																																								
緑ヶ丘	71.0%	68.2%	68.2%	68.2%																																								
向陽ヶ丘	67.0%	64.9%	75.9%	70.4%																																								
コドモックル	71.0%	71.8%	75.9%	73.9%																																								
計	74.5%	72.4%	72.0%	72.2%																																								
(4) 業務委託の推進 契約内容の積極的な見直しによる経費節減	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清掃や警備など庁舎管理業務の委託を進め、適宜、業務内容の見直しに努めるとともに、医事や医師事務作業補助などの業務においては、本庁一括契約を行い、費用の縮減に努めている。 																																											
(5) 固定資産の用途変更等 未利用の資産の用途変更、廃止、処分等の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緑ヶ丘病院の農場及びグラウンド、旧北見病院については、活用方法を継続して検討する。 																																											
(6) 管理経費等の節減 光熱水費等の節約や事務用品の廉価購入等による節減	<ul style="list-style-type: none"> ○ 療養環境に十分配慮しながら、各病院で光熱水費の節減に努め、費用の縮減を図った。 																																											

3 職員の意識の向上

① 上半期評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の実績
○ 職員満足度調査を実施するとともに、全部適用への移行後の取組や新たな改革プランにおける病院の役割等について、病院職員との意見交換を行い、今後の経営改革に向けた考え方について意識を共有すること。	○ 各病院で経営推進会議を開催しながら、経営情報の共有や経営参画意識の向上に努めたほか、全適移行後の取組や新たな改革プランにおける病院の役割等について、課題把握を行うとともに、今後の経営について意識改革に努めた。

② 個別事項概要

プラン	自己点検・評価																																																	
(1) 職員の満足度の向上 職員満足度調査の実施等による働きやすい職場環境の整備	<p>○ 道立病院に勤務する職員を対象に満足度調査を実施（平成29年1月～3月）。[回答率92.8%（回答者数752人）]結果概要、平成26年度実施結果との比較について、各病院へ報告。</p> <p>○ 道立病院職員満足度調査の結果比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">仕事に対する満足度</th> <th colspan="3">勤務条件等に対する満足度</th> <th colspan="3">職場環境に対する満足度</th> </tr> <tr> <th>やりがい</th> <th>職務適合性</th> <th>勤続への意欲</th> <th>報酬(給与・手当)</th> <th>職員配置</th> <th>業務量</th> <th>能力開発支援</th> <th>職員間の情報共有</th> <th>新入職者へのフォロー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>59.6</td> <td>58.3</td> <td>52.0</td> <td>36.1</td> <td>16.2</td> <td>34.6</td> <td>63.4</td> <td>45.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>62.1</td> <td>61.2</td> <td>49.5</td> <td>44.7</td> <td>15.4</td> <td>30.2</td> <td>64.6</td> <td>39.1</td> <td>54.5</td> </tr> <tr> <td>差</td> <td>2.5</td> <td>2.9</td> <td>▲2.5</td> <td>8.6</td> <td>▲0.8</td> <td>▲4.4</td> <td>1.2</td> <td>▲5.9</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		仕事に対する満足度			勤務条件等に対する満足度			職場環境に対する満足度			やりがい	職務適合性	勤続への意欲	報酬(給与・手当)	職員配置	業務量	能力開発支援	職員間の情報共有	新入職者へのフォロー	H26	59.6	58.3	52.0	36.1	16.2	34.6	63.4	45.0	—	H28	62.1	61.2	49.5	44.7	15.4	30.2	64.6	39.1	54.5	差	2.5	2.9	▲2.5	8.6	▲0.8	▲4.4	1.2	▲5.9	—
	仕事に対する満足度			勤務条件等に対する満足度			職場環境に対する満足度																																											
	やりがい	職務適合性	勤続への意欲	報酬(給与・手当)	職員配置	業務量	能力開発支援	職員間の情報共有	新入職者へのフォロー																																									
H26	59.6	58.3	52.0	36.1	16.2	34.6	63.4	45.0	—																																									
H28	62.1	61.2	49.5	44.7	15.4	30.2	64.6	39.1	54.5																																									
差	2.5	2.9	▲2.5	8.6	▲0.8	▲4.4	1.2	▲5.9	—																																									
(2) 経営参画意識の向上 病院理念や経営情報の共有による職員全員の経営参画意識の向上	<p>○ 各病院で経営推進会議を毎月開催。経営情報を職員で共有しながら、収益確保と費用削減の取組を進めた。</p> <p>○ 本庁職員と、病院幹部や各診療科の医師との意見交換などにより、各病院の課題等に応じた、収益確保に向けた取組の協議を通じ、経営状況等に関して情報共有を図り、経営上の課題解消に努めた。</p>																																																	
(3) 改善意識の向上 職員からの業務改善提案の奨励等による一人一人の改善意識の向上	<p>○ 本庁と各病院との一体となった経営改善を進めるため、病院ごとにプランの達成に向けた取組方針を十分に協議のうえ策定し、数値目標の達成状況について、毎月の院内会議で報告するなどの取組を行った。</p>																																																	

■ 委員会点検・評価

○ 費用については、北見・向陽ヶ丘病院の移転新築に関する一時的な増はあったが、全体として縮減が図られている。今後も、患者の療養環境に配慮しながら縮減に努めること。
○ 後発医薬品については、採用率が目標を下回っており、患者の負担軽減の観点からも、目標に向けた利用の拡大を図ること。
○ 道立病院の厳しい経営状況について、職員との共有を図るとともに、職員満足度調査の結果を活用しながら、職員全員の経営参画意識の向上が図られる対策を検討すること。

第3章 収支計画及び数値目標の達成状況に係る評価

(1) 病院事業共通

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 医業収益が上がっていない要因としては、主要診療科における医師の減や新病院移転に伴う患者受入調整等による入院患者の減により入院収益が減少したことが影響している。下半期にむけて、特に新病院での収益確保に重点的に取り組むこと。 ○ 今後、新たな改革プランで目標としなければならない病床利用率は70%であり、各病院で病床利用率を向上させるための取組を検討すること。 ○ 費用については、収益が減少していることを踏まえ、引き続き節減に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北見病院においては、北見赤十字病院との連携により、入院・外来患者数及び外来収益は前年度を上回ったが、入院収益は前年度に及ばなかった。 また、向陽ヶ丘病院においては、長期入院患者の退院促進を進めたことにより、入院収益は前年度を下回ったが、外来収益は注射など処置料の増により前年度並の収益を確保した。 ○ 病床利用率については、江差病院において地域包括ケア病床の要件整備を進めるとともに、その他の病院においても、他の医療機関との連携を強化するなど病床利用率を向上させるための取組を進めた。 ○ 費用においては、医薬品の廉価購入による医薬材料費比率の低減などにより、費用の縮減に努めた。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						
区分	H28年間目標	H28年間実績見込	年間目標対比	H27年間実績	対H27比	
	A	B	B/A %	C	B/C %	
収 益 (a)	11,761	10,142	86.2%	11,370	89.2%	【患者数】 ・入院は、北見病院及び向陽ヶ丘病院の移転新築の影響もあり、目標比76.5%、前年度比88.1%に減少した。 ・外来は、新規患者の掘り起こしのため、関係機関や住民向けのPRなどの取組を実施したことから、ほぼ前年度並みであった。 【収益】 ・医業収益は、北見病院及び向陽ヶ丘病院の移転新築の影響もあり、入院は前年度の収益を下回ったが、外来は概ね前年度並みを確保した。 ・医業外収益は、旧苫小牧病院廃止関連の収益がなくなったため、前年度より減となった。 ・この結果、総収益は目標比86.2%、前年度比89.2%となった。 【費用】 ・患者数の減により収益の減が見込まれたため、費用の一層の縮減を図った結果、総費用は目標比91.9%、前年度比96.3%の執行率となった。 【収支差】 ・前年度と比較して収益・費用ともに減少したが、収支差は前年度から拡大した。なお、目標とは同程度となった。
医 業 収 益	9,469	7,894	83.4%	8,317	94.9%	
うち入院収益	6,451	5,072	78.6%	5,490	92.4%	
うち外来収益	2,889	2,673	92.5%	2,683	99.6%	
医 業 外 収 益	2,275	2,222	97.7%	3,018	73.6%	
うち療育入所収益	750	694	92.6%	758	91.6%	
1日平均入院患者数	552	434.3	78.7%	488.1	89.0%	
1日平均外来患者数	1,121	1,023.6	91.3%	1,043.1	98.1%	
費 用 (b)	17,867	16,416	91.9%	17,051	96.3%	
医 業 費 用	15,361	14,152	92.1%	13,635	103.8%	
うち医薬材料費	2,116	1,809	85.5%	1,939	93.3%	
医薬材料費比率(%)	23.0	23.4	—	23.7	—	
医 業 外 費 用	2,438	2,201	90.3%	2,173	101.3%	
うち療育費用	1,733	1,584	91.4%	1,599	99.1%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 6,106	▲ 6,274	102.8%	▲ 5,681	110.4%	

■ 委員会点検・評価

- 患者数の減少傾向が続いていることから、地域の医療機関等との連携や積極的な情報発信などにより、患者確保に努めること。
- 新たな改革推進プランで定めた経常収支比率など、数値目標の達成に向けた経営改善に取り組むこと。

(2) 江差病院

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ センター病院の機能として、患者数・医業収益を確保する上で重要な外科医の確保に取り組むこと。 ○ 運用開始が遅れている地域包括ケア病床について、早期に整備を進めるとともに、運用後の患者確保、退院後の受入先確保のための準備を行うこと。 ○ 新たな改革プラン、地域医療構想の策定を期に、南檜山地域における将来の医療提供体制のあり方について、周辺自治体・医療機関と協議する機会を設けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外科医の確保に向けて、医育大学への要請を実施した。 ○ 地域包括ケア病床の要件であるデータ提出加算の算定を開始するとともに、リハビリ提供の実績づくりなどを行った。 ○ 周辺4町・医療機関と今後の適正病床数や病床機能等について意見交換を実施した。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						<p>【患者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院は、整形外科において前年度を大きく上回ったものの、内科医及び外科医の減などが影響し、目標比63.8%、前年度比87.4%となった。 ・外来は、整形外科などにおいて前年度を上回ったものの、内科医及び外科医の減などが影響し、目標比83.3%、前年度比96.4%と減少した。 <p>【収益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院は、整形外科において医師が複数体制に戻ったことにより手術件数が増加したが、目標比58.8%、前年度比83.0%となった。 ・外来は、目標比83.3%、前年度比93.8%にとどまった。 <p>【費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者数の減に伴い、医薬材料費等が減少したことなどにより、目標比87.6%の執行率となった。 <p>【収支差】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支差は前年度実績、目標と比較して拡大した。
区 分	H28年間目標 A	H28年間実績見込 B	年間目標対比 B/A %	H27年間実績 C	対H27比 B/C %	
収 益 (a)	2,467	1,776	72.0%	2,013	88.3%	
医 業 収 益	2,198	1,526	69.4%	1,725	88.5%	
うち入院収益	1,297	762	58.8%	917	83.0%	
うち外来収益	856	713	83.3%	760	93.8%	
医 業 外 収 益	260	243	93.8%	262	92.9%	
1日平均入院患者数	126.0	80.3	63.8%	92.0	87.4%	
1日平均外来患者数	369.0	307.4	83.3%	319.0	96.4%	
病床利用率(%)	82.9	52.9	63.8%	60.5	87.4%	
費 用 (b)	3,217	2,817	87.6%	2,943	95.7%	
医 業 費 用	3,047	2,639	86.6%	2,757	95.7%	
うち医薬材料費	475	338	71.2%	385	87.8%	
医薬材料費比率(%)	22.6	22.9	-	22.9	-	
医 業 外 費 用	162	161	99.4%	167	96.4%	
収 支 差 (c=a-b)	▲750	▲1,041	-	▲930	-	

■ 委員会点検・評価

- センター病院としての機能を発揮できるよう、患者数・医業収益を確保する上で必要な主要診療科の医師の確保に最大限取り組むこと。
- 準備中である地域包括ケア病床については、早期に運用を開始するとともに、患者確保に努めること。
- 地域での意見交換を踏まえ、周辺医療機関との役割分担などについて、継続して協議を行うこと。

(3) 北見病院

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
<p>○ 新病院移転のため、患者調整により入院収益が減少せざるを得ない中、外来収益の増により前年度を上回る実績を残したことは評価。 下半期については、新病院の機能をフルに発揮し、より一層の収益確保に努めること。</p> <p>○ 隣接する北見赤十字病院との連携のもと、高度・専門医療機能の更なる充実を図ること。</p>	<p>○ 北見赤十字病院と連携し、救急患者の受入や手術件数の増などによって、医療収益は、上半期と比べ14.7%増加した。</p> <p>○ 隣接する北見赤十字病院との連携に関する協定書に基づき、連携検討協議会を4回開催し、連携強化による高度・専門医療機能の更なる充実を努めた。</p>

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						
区 分	H28年間目標 A	H28年間実績見込 B	年間目標対比 B/A %	H27年間実績 C	対H27比 B/C %	
収 益 (a)	1,828	1,567	85.8%	1,445	108.5%	<p>【患者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院は、循環器内科・呼吸器内科において、前年度を上回る患者数を確保し、目標比83.9%、前年度比103.2%となった。 外来は、北見赤十字病院との連携などにより、目標比98.8%、前年度比100.2%となった。 <p>【収 益】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院は、病院の移転新築の影響もあり、目標比80.5%、前年度比90.4%となった。 外来は、呼吸器内科の肺がん治療の増により、目標比100.8%、前年度比112.6%となり、目標を上回る収益を確保した。 <p>【費 用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院の移転新築に伴う経費の増、建物及び器械備品の減価償却費増などにより前年度比118.2%となったが、目標比89.5%の執行率に止めた。 <p>【収支差】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度より収支差は拡大したが、目標以内にとどめた。
医 業 収 益	1,424	1,203	84.5%	1,270	94.8%	
うち入院収益	1,141	918	80.5%	1,016	90.4%	
うち外来収益	275	277	100.8%	246	112.6%	
医 業 外 収 益	403	361	89.5%	174	207.5%	
1日平均入院患者数	37.9	31.8	83.9%	30.9	103.2%	
1日平均外来患者数	65.0	64.2	98.8%	64.1	100.2%	
病床利用率(%)	70.3	59.0	83.9%	81.2	72.7%	
費 用 (b)	2,559	2,289	89.5%	1,936	118.2%	
医 業 費 用	2,457	2,226	90.6%	1,906	116.8%	
うち医薬材料費	565	462	81.8%	501	92.2%	
医薬材料費比率(%)	40.9	38.7	-	39.7	-	
医 業 外 費 用	94	54	57.5%	27	200.0%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 731	▲ 722	-	▲ 491	-	

■ 委員会点検・評価

<p>○ 移転新築による患者調整の影響はあったが、入院・外来患者数は前年度実績を上回ったことは評価する。</p> <p>○ 隣接する北見赤十字病院との連携強化を図り、高度・専門医療機能の更なる充実を努めること。</p>

(4) 羽幌病院

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度から新たに整備した地域包括ケア病床について、周辺医療機関・福祉施設等に広く周知するなど、病床利用率の向上を図ること。 ○ 圏域のもう1つのセンター病院である留萌市立病院とも役割分担・連携を図りながら、患者確保に努めること。 ○ 患者数の減少傾向に歯止めがかからないことや医育大学からの医師派遣を受けることも大変難しいことから、自治医科大学出身医師の積極的な採用と総合診療医の配置を早急に検討すること。 ○ 今後、道立病院として果たす役割・機能を明確にし、地域の関係者の理解を深める取組を進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括ケア病床について、周辺医療機関・地域包括支援センターや福祉施設等に周知を行い、病床利用率の向上に努めたが、目標には達しなかった。 ○ 専門医の確保が困難なことから、医療需要に幅広く対応できる総合診療医主体の診療体制に移行することとした。 ○ 平成28年10月に「留萌中部地域の医療のあり方等に関する意見交換会議」において、地元自治体と羽幌病院の現状・課題について意見交換を行った。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
区 分	H28年間目標	H28年間実績見込	年間目標対比	H27年間実績	対H27比	【患者数】 ・入院は、地域包括ケア病床の運用開始や介護者支援短期（レスパイト）入院などにより患者確保に努めたが、目標比63.7%、前年度比83.0%となった。 ・外来は、内科患者数の減により、目標比89.5%、前年度比97.2%となった。
	A	B	B/A %	C	B/C %	
収 益 (a)	1,161	999	86.1%	1,032	96.8%	【収益】 ・入院は、患者数減により、目標比65.8%、前年度比88.8%となった。 ・外来も、患者数減により、目標比89.4%、前年度比96.1%となった。 【費用】 ・医薬材料費は検査薬の新規購入などにより増加したが、退職給付費の減により目標比92.3%、前年度比99.8%の執行率となった。 【収支差】 ・収支差は前年度実績、目標よりも拡大した。
医 業 収 益	984	800	81.4%	848	94.3%	
うち入院収益	382	251	65.8%	283	88.8%	
うち外来収益	581	519	89.4%	541	96.1%	
医 業 外 収 益	175	192	109.8%	183	105.0%	
1日平均入院患者数	36.0	22.9	63.7%	27.6	83.0%	
1日平均外来患者数	217.0	194.2	89.5%	199.7	97.2%	
病床利用率(%)	80.0	51.0	63.8%	61.4	83.1%	
費 用 (b)	1,861	1,718	92.3%	1,720	99.8%	
医 業 費 用	1,741	1,601	92.0%	1,603	99.9%	
うち医薬材料費	250	231	92.3%	218	105.8%	
医薬材料費比率(%)	26.0	30.0	-	26.5	-	
医 業 外 費 用	113	112	99.0%	114	99.0%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 700	▲ 719	-	▲ 688	-	

■委員会点検・評価

- 新たに整備した地域包括ケア病床について、利用促進に向けた取組を行っているが、病床利用率は低迷しているため、地域の医療機関・福祉施設等と積極的に連携を図りながら、病床利用率の向上に努めること。
- 圏域内の人口推計で大幅な人口減少が見込まれ、患者数も減少傾向にあることから、患者の受療動向を踏まえ、将来の医療提供のあり方について、地域の関係者と継続して意見交換を行うこと。

(5) 緑ヶ丘病院

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> ○ スーパー救急病棟の利用率維持に努めること。 ○ 入院患者は減少傾向にあるため、積極的な患者確保と診療単価の増に努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科救急入院（スーパー救急）病棟の利用率は目標以上で、昨年度並の高水準であったが、長期入院患者の退院促進により、入院収益は大きく減少した。 ○ 入院はスーパー救急病棟の稼働、外来は退院後通院患者及び訪問看護の増があったが、入院患者の減少が大きいため、医業収益全体では目標を達成できなかった。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						
区分	H28年間目標 A	H28年間実績見込 B	年間目標対比 B/A %	H27年間実績 C	対H27比 B/C %	
収 益 (a)	1,239	1,213	97.9%	1,253	96.8%	<p>【患者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院は、長期入院患者の退院促進により減少し、目標比 82.0%、前年度比 84.4%となった。 ・外来は、退院後通院患者及び訪問看護の増により、目標比 103.1%、前年度比 101.3%で、概ね目標どおりとなった。 <p>【収 益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院は、精神科スーパー救急病棟が一年を通して稼働し、診療単価は増加したが、患者数の減が大きく、収益は目標比 90.6%、前年度比 91.0%となった。 ・外来は、退院後通院患者及び訪問看護の増により、目標比 112.0%、前年度比 111.5%となり、目標を上回った。 <p>【費 用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後発医薬品の採用率向上に努めるなど、医薬材料費比率の低減を図るとともに、光熱水費等経費の節約により、目標比 91.3%、前年度比 97.7%の執行率となった。 <p>【収支差】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支差は前年度実績より微減し、目標より縮小した。
医 業 収 益	1,145	1,111	97.0%	1,150	96.6%	
うち入院収益	814	737	90.6%	810	91.0%	
うち外来収益	316	354	112.0%	318	111.5%	
医 業 外 収 益	92	97	105.4%	100	96.5%	
1日平均入院患者数	107.0	87.8	82.0%	104.0	84.4%	
1日平均外来患者数	167.0	172.2	103.1%	170.0	101.3%	
病床利用率(%)	78.1	64.1	82.1%	75.9	84.5%	
費 用 (b)	2,000	1,826	91.3%	1,869	97.7%	
医 業 費 用	1,956	1,777	90.8%	1,825	97.4%	
うち医薬材料費	90	75	83.2%	74	101.5%	
医薬材料費比率(%)	8.0	6.9	-	6.5	-	
医 業 外 費 用	42	41	99.0%	41	102.1%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 761	▲ 613	-	▲ 616	-	

■委員会点検・評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ スーパー救急病棟の利用率の維持等により、診療単価が増加したことは評価する。今後も引き続き、現行の精神科救急医療を担うこと。 ○ 入院患者が減少傾向にあるため、広域的な視野により医療需要を把握しながら積極的な患者の確保に努めること。
--

(6) 向陽ヶ丘病院

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
○ 新病院の療養環境や認知症疾患医療センターなどの病院機能をより一層PRし、広域で利用者の拡大に努めること。	○ 出前講座や地域住民向け講演会などにより認知症疾患医療センターのPRを行い、利用者の拡大に努めたが、目標に達しなかった。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						
区 分	H28年間目標 A	H28年間実績見込 B	年間目標対比 B/A %	H27年間実績 C	対H27比 B/C %	
収 益 (a)	979	933	95.3%	808	115.5%	【患者数】 ・入院は、移転新築に伴う退院促進の影響により、目標比85.5%、前年度比82.2%となった。 ・外来は、認知症疾患医療センターの新規患者数の伸び悩みなどにより、目標比88.7%、前年度比95.4%と減少した。
医 業 収 益	758	679	89.6%	776	87.5%	
うち入院収益	496	428	86.2%	526	81.3%	
うち外来収益	251	241	96.0%	238	101.5%	
医 業 外 収 益	218	253	115.8%	29	858.7%	【収 益】 ・入院は、移転新築に伴う退院促進の影響により、目標比86.2%、前年度比81.3%となった。 ・外来は、診療単価の増により前年度比101.5%となったが、目標比96.0%にとどまった。
1 日 平 均 入 院 患 者 数	90.0	77.0	85.5%	93.7	82.2%	
1 日 平 均 外 来 患 者 数	139.0	123.3	88.7%	129.2	95.4%	
病 床 利 用 率 (%)	79.0	67.5	85.4%	64.2	105.1%	【費 用】 ・移転新築による建物及び器械備品の減価償却費により、前年度比126.7%と大幅な増となったが、目標比93.4%にとどまった。 【収支差】 ・収支差は目標よりも縮小したが、前年度からは拡大した。
費 用 (b)	1,773	1,656	93.4%	1,307	126.7%	
医 業 費 用	1,681	1,601	95.2%	1,276	125.5%	
うち医薬材料費	77	91	118.8%	95	95.9%	
医薬材料費比率(%)	10.5	13.7	-	12.5	-	
医 業 外 費 用	90	54	60.0%	28	190.4%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 794	▲ 723	-	▲ 499	-	

■委員会点検・評価

○ 療養環境や認知症疾患医療センターなどの病院機能のPRを継続して実施し、広域での利用者の拡大に努めること。
--

(7) 子ども総合医療・療育センター

① 上半期委員会評価への対応状況

上半期委員会点検・評価	平成28年度の取組実績
○ 産科の診療再開、心臓血管外科での手術実施例を積極的にPRするとともに、他の産科標榜医療機関に対し、特定機能周産期母子医療センターの機能等について周知するなどして連携に努め、患者確保に繋がる取組を進めること。	○ 紹介元となる医療機関の拡大に向けてPR等に取り組んだ結果、外来患者数は前年度をやや上回ったものの、入院患者数は前年度より減少した。

② 個別事項

数値目標に対する実績見込						自己点検・評価
(単位:百万円)						
区分	H28年間目標 A	H28年間実績見込 B	年間目標対比 B/A %	H27年間実績 C	対H27比 B/C %	
収 益 (a)	4,084	3,651	89.4%	3,695	98.8%	【患者数】 <医療部門> ・入院は、平均在院日数の短縮により、目標比 80.8%、前年度比 97.8%となった。 ・外来は、医療機関への周知による紹介患者の増や、在宅移行患者の増により、前年度比 100.7%となったが、目標比は 99.0%にとどまった。 <療育部門> ・目標比 93.8%、前年度比 94.3%と、ともに下回った。 全体では、目標比 86.8%、前年度比 96.1%となった。 【収 益】 <医療部門> ・入院は、産科の診療再開等による診療単価の増により、前年度比 102.0%となったが、目標比は 85.1%となった。 ・外来は、診療単価の減により、目標比 93.3%、前年度比 97.9%となった。 <療育部門> ・医業外の入所収益は、入所者数は増加したものの、目標比 92.6%、前年度比 91.6%となった。 【費 用】 ・高額医薬品の購入減により、医薬材料費比率が前年度より改善された他、療育部門の費用である医業外費用も縮減したため、費用全体は目標比 94.9%、前年度比 99.0%の執行率であった。 【収支差】 ・収益全体で前年度比 98.8%、費用全体で前年度比 99.0%と微減した結果、収支差が縮小したが、目標までには至らなかった。
医 業 収 益	2,959	2,575	87.0%	2,549	101.0%	
うち入院収益	2,321	1,976	85.1%	1,937	102.0%	
うち外来収益	610	569	93.3%	581	97.9%	
医 業 外 収 益	1,125	1,075	95.5%	1,144	93.9%	
うち療育入所収益	750	694	92.6%	758	91.6%	
1 日 平 均 入 院 患 者 数	155.0	134.5	86.8%	140.0	96.1%	
うち医療部門	84.0	67.9	80.8%	69.4	97.8%	
うち療育部門	71.0	66.6	93.8%	70.6	94.3%	
1 日 平 均 外 来 患 者 数	164.0	162.3	99.0%	161.1	100.7%	
病 床 利 用 率 (%)	72.1	64.3	89.2%	67.0	96.0%	
うち医療部門	84.9	68.6	80.8%	70.1	97.9%	
うち療育部門	64.6	60.5	93.7%	64.2	94.3%	
費 用 (b)	6,101	5,787	94.9%	5,846	99.0%	
医 業 費 用	4,135	3,985	96.4%	4,009	99.4%	
うち医薬材料費	659	611	92.7%	667	91.7%	
医薬材料費比率(%)	22.7	24.0	-	26.5	-	
医 業 外 費 用	1,927	1,776	92.2%	1,796	98.9%	
うち療育費用	1,733	1,584	91.4%	1,599	99.1%	
収 支 差 (c=a-b)	▲ 2,017	▲ 2,136	-	▲ 2,151	-	

■ 委員会点検・評価

- 産科の再開など、診療体制の充実により入院の診療単価が増となり、医業収益が前年度実績を上回ったことは評価。
- 今後も、紹介元の医療機関と連携を図るとともに、医療機能を最大限発揮しながら、患者確保の取組を進めること。